

第3号様式（第7条関係）

平成27年3月6日

開成町議会議長 小林哲雄様

開成町議会議員 高橋久志 印
(代表)

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 (調査事項又は 研修項目)	「平成26年度議員県外行政視察」 ①議会広報について ②子育て支援ナンバーワンのまちづくりについて
目的地	①名称等：愛知県大口町 住所：愛知県丹羽郡大口町下小口七丁目155番地 ②名称等：愛知県東郷町 住所：愛知県愛知郡東郷町大字春木字羽根穴1番地
期日(期間)	平成27年2月5日（～平成27年2月6日）
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

- ※ 派遣された委員又は議員は、派遣終了後30日以内に議長に提出してください。
- ※ 「視察又は研修の成果」は、調査・研修内容や実施後の所感などを具体的に別葉に作成して添付してください。
- ※ 研修等を受講した場合、研修先から交付される「修了証」等を添付してください。

神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	小 林 哲 雄	無所属	
副 議 長	井 上 宜 久	無所属	
議 員	菊 川 敬 人	無所属	
議 員	高 橋 久 志	日本共産党	代表
議 員	吉 田 敏 郎	無所属	
議 員	下 山 千 津 子	無所属	
議 員	前 田 せ つ よ	公明党	
議 員	鈴 木 庄 市	無所属	
議 員	茅 沼 隆 文	無所属	
議 員	山 田 貴 弘	無所属	
議 員	佐 々 木 昇	無所属	
議 員	小 林 秀 樹	無所属	

随 行

議会事務局長	加 藤 順 一
--------	---------

大口町は、愛知県の北西部に位置し、東西3.6km、南北6.1km、面積13.58km²で開成町の約2倍であり、自然や田園地帯が広がる人口23,193人の町である。

平成19年5月より、議会だより編集委員会を廃し議会広報常任委員会を設置し、議会（議員）の意識醸成のため研修を積んで真剣に取り組んでいる。

編集は、委員6人と事務局職員によって行われ、定例会初日終了後に前号の反省を行い、今号の方針を決定する。定例会終了後1週間以内に入稿し、その後、3回にわたり校正を行い、記事全般をチェックし、発行は、定例会終了後の翌々月の1日としている。

議会広報の存在意義は、単に結果を知らせるものではなく、どのような審議を経て、このような結果に至ったのかのプロセスを知らせるべきと考えている。

『誰も読まない』から始めよう！』を原点とし、紙面構成を行っている。目を通してもらえれば良いという考えから、保存用のとじ穴はない。

記事内容は「一般質問」、「議案審議」、「議会活動」及び「住民参加」の4つの柱を基本としている。町の広報とは別物であると考え、重複等、内容調整はしていない。

議案の説明などは見開き2ページを使用することで流れが途切れないよう工夫されており、掲載は、審議順ではなく重要度、関心度が高い順としている。

一般質問は、質問者一人につき1ページを使用し、「本文40%、見出しと写真で40%、空白20%」をレイアウトの基本としている。また、質問議員の顔写真は、定例会ごとに撮り直している。文章表現については、会議録と広報の目的は異なるとの考えから、意識によって全体の意味が変わらないよう注意を払っており、業界用語（お役所言葉）を日常用語に言い換え、専門用語には注釈をつけ、分りやすさに努めている。

1年前の一般質問に対する行政の取り組み状況の追跡調査を行い「追跡あれからどうなった」というコーナーを設けている。

特筆すべきものとして、委員会による修正を全面的に認めていることがあげられる。

お互いの議会広報をより良いものにするため、活発な意見交換をさせていただきました。「参考になるものは何でもマネよ」という積極的な委員の姿勢と「不評であればやめればいい」という大胆さは、今後の広報委員会の編集の上で大変刺激となり、参考になるものでした。

派遣成果報告

愛知県東郷町「子育て支援ナンバーワンのまちづくりについて」

平成27年2月6日（金）

東郷町は、面積 19.03 km²・人口 42,581 人で開成町の約 2.5 倍である。この町は、「子育て支援ナンバーワン」のまちづくりを目標として、様々な施策が展開されている。

人と町が元気になることを目指し、次世代の子供たちのために、子育て支援としてキラリと光る三本柱を掲げ「子育て支援」「健康作り」「にぎわいづくり」に取り組んでいる。そして、まちの将来を担う子どもたちが健やかに成長できるように「子育てするなら東郷町」をまちづくりのキーワードとしている。

各々の施策は具体的な詳細が示されていて、14 応援プランの概要と、「ここが自慢」と記されたリーフレットを見るだけで、自信を持って実施されていることを実感した。

1. 放課後子ども教室については

平成 20 年 10 月に開設後、全 6 校の内 4 校で実施しているが、27 年 6 月から全ての小学校で 6 年生までを対象に設置の予定。在籍者で参加希望者全てを登録する。

2. 子育て支援カウンセラーについては

カウンセラーを子育て支援課に配し、子育てに不安を抱える家庭をフォローしている。また、保育園を訪問し、直接に保育士等へ指導を行っている。

3. 子ども条例について

すべての子どもは、一人の人として尊重されるとともに、地域社会の一員としてかけがえのない大切な存在であるための条例を制定している。

4. 小児医療費助成については

町長のトップダウンで 18 才までを所得制限なしで実施されている。就学前までは、県が 1/2 を負担し、残りを一般財源でおぎなっている。

まさしく目的と実施内容が明確にされており、成果がはっきりとわかる施策である。

第三セクターで運営する施設



健康づくりセンター・ファミリーサポート



おもちゃルーム

開成町議会議員 菊川敬人

菊川 敬人 議員

○ 東郷町を訪ねて

開成町の約1.5倍の規模を有する東郷町は、元気な町づくりを目指して、隣接する市と肩を並べ県内トップの平均寿命を誇っている。健康寿命の延伸へ向けた健康づくり・体力づくり・介護予防対策を第3セクターへ依託してトレーニングジムで密度の濃いカリキュラムを作成し事業が展開されている。

一方、子育て支援では、子どもと保護者のために、生まれてから発育の過程で必要となる案件の解決へ向けて、町長のトップダウンで施策が実践されている。全ての子ども一人一人を人として尊重し、社会の一員として見守るための「東郷町子ども条例」を制定し、地域社会で見守ることとしている。また、小児医療費助成制度は、入院・通院ともに18才までを所得制限なしに無料化すると共に、生後6ヶ月から小学校3年生までを預かる「病児・病後児保育制度」により働く親への支援に当たっている。

その他様々な先進的施策を保護者目線で実践されていることに、本気で元気な町づくりに取り組む姿勢が感じ取れ、このような施策について、今後、我が町にどのように活用していくのかを考えさせられる視察であった。

高橋 久志 議員

(1) 愛知県大口町議会

議会だよりの基本姿勢、特徴では、議会の様子を住民に伝えるための原点として「誰も読まない」からの脱却を目指し、「分かりやすく」「ありのまま」をキャッチフレーズに編集している。週刊誌が手本、他の議会の「議会だよりをマネする」との話しには驚きました。編集方針・ルールが確立しており、わかりやすい紙面づくりへの取り組みや「ふれあいまつり」会場で「議会だよりアンケート」の実施は参考になった。精査して協議をしたい。

(2) 愛知県東郷町

「子育てするなら東郷町」を目指して、様々な取り組みがなされていた。町長のトップダウン等による子育て支援を展開している先進自治体の事業に感銘を受けた。「子育て応援プラン」として14事業を展開、①子ども医療費助成では、18歳までの入院・通院ともに、自己負担なし・所得制限なしで実施。(愛知県内初の制度) ②病児・病後児保育の実施。(病院内の専用施設・有料) ③子ども条例制定④全小学校(6校)に児童館設置(隣接)。また、TIS健康事業部(民間事業者による健康づくり)や発達障がい早期総合支援事業も実りのある研修であった。町でも調査・研究(研修)して取り組む課題であると感じた。

吉田 敏郎 議員

「子育てするなら東郷町」と、子育て支援 No.1 のまちづくりを目指し、子どもの医療費助成を愛知県ではじめて「18歳」までの入院費と医療費を自己負担なし、所得制限なしに拡大した。また、妊娠、出産の応援として不妊治療費助成制度に加え不育症治療費助成制度も、愛知県ではじめて設けるなど、様々な子育て支援を行っている。中でも、「病児・病後児保育」に以前から関心があったので注目した。病気または病気の回復期にある子供を、保護者の勤務その他の理由により家庭で看護を行うことが困難な場合に、町が委託する施設で日中一時的に預かってくれることです。「子どもが風邪をひいて熱がある、でも会社を休めない」といった場合に利用できる。生後6ヶ月から小学3年生までの児童等の制限はあるが、見習いたい制度である。病気になっても安心保育ができるようわが町行政にも期待したい。これからの子育て支援に向けて参考になる視察でありました。

下山 千津子 議員

県外行政視察は学ぶ所が多い、特に今回の愛知県大口町の「議会広報について」と東郷町「子育て支援ナンバーワンの町づくりについて」は、私にとり関心が高いテーマであり期待しての視察であった。

一日目の大口町は、山も無く平坦・温暖であり我が町と類似点が多い。「議会広報について」のテーマで、議会だよりは単なる結果の報告ではなく、プロセスの知らせであるとし、基本姿勢・特徴・条例・規則等の説明があり、町民にいかに読んでいただけるかの原点の内容等、広報委員の私には、期待通り収穫の多い事項であった。

二日目の東郷町はキラリと光る三つの柱で「子育て支援」「健康づくり」「賑わいづくり」を掲げ、子育てにおいては実にきめ細かに様々な施策が展開されていた。

我が町の今年4月から稼働する、教育委員会部局の「子育て支援室」に大いに期待する。

二町とも町の特産品と温かいお茶でもてなされ、視察の受け入れ体制が充実しており、今後の活動に生かします。

前田 せつよ 議員

一日目は、議会広報の編集について、大口町議会広報常任委員会の取り組みを研修しました。議会だよりを発行する経過の中で、様々な興味深い事柄がありました。特に、一般質問をした議員から提出された原稿を編集するときに、個人の文章、原稿のタイトルまでも思い切って添削していることなど、編集委員会の権限が確立されていることが際立っていました。「全国の議会だよりコンクール」で常に上位入賞する大口町議会の起因を実感し、多くの提案もいただいたので精査し取り入れたいと考えます。

2日目は、子育て支援について東郷町の施策を視察研修しました。子育て応援プランとして14項目の取り組みが実施されていましたが、特に注目したのは「病児・病後児保育」でした。病後児の保育に続き、平成25年4月からは病気の子どもも保育することを加え、地元病院内の施設で運用されていました。先進事例が展開されている東郷町ですが、さらに進化していく基本には、子ども達に関わる担当課を始めとした数々の課の連携が充分にとられていることが分かりました。開成町では4月から子育てを一元化した「子育て支援室」が開設しますが、この度の研修を活かして提案など行っていきたいと思います。

鈴木 庄市 議員

2月5日・6日両日愛知県大口町に「議会広報」について、東郷町には「子育て支援」について、両町を視察した。

大口町は人口23,193人、名古屋市まで直線距離で18kmの位置にあり住宅地として人気途上の町であり、町村議会広報全国コンクールに連続入選している。

「誰も読まないのが広報」と位置づけ、これが原点でいかに読者の気を引くかの工夫が大事、写真見出しは大胆に、目を通してもらえればOKで、すべてそこから始まるとの説明を受ける。

おおぐち議会だよりを一見して見出しが大きく目を引く。写真の活用で読みやすく、分かりやすい。読むと言うよりは観るという印象です。紙面の編集は記事40%見出し20%写真20%余白20%である。

余白20%は考えによっては勿体ないと思われるが、いかに内容の良いものであっても文字の羅列では読んで貰えない。いかに多くの人の手にとってもらえるか、そして開いて読んでもらえるか。紙面を工夫した広報づくりを目指しているのが分かる。今後の参考にしたい。

茅沼 隆文 議員

大口町での議会広報誌の編集に関する説明は、「目を通してもらうだけで良い、保存する必要がない」との割り切った考えに基づく編集方針であった。我々の議会だよりについても、もう一度原点に立ち戻って研究するべきかもしれない。

東郷町での子育て支援に関する視察では、子育て応援プランとして 14 の事業をきめ細かく展開しており、「子育てするなら東郷町」というスローガンにふさわしい内容であると感じた。また、現場を視察した「いこまい館」は、町が 100% 出資して設立した「東郷町施設サービス（株）」を指定管理者として、町民の健康づくりに取り組んでおり、各種の施策などは、多いに参考とするべき点があった。

山田 貴弘 議員

○ 愛知県大口町議会・議会広報常任委員会「議会広報について」

1. 議会だよりの紙面づくりについての基本姿勢として、①「誰も読まない」から始めよう。②「分かりやすく」「ありのままに」③役所言葉などを住民が分かる言葉に翻訳④週刊誌が手本⑤時にはくだけた表現も⑥見本となる先例事例を習うよりマネよ。

上記、基本姿勢は、当たり前のことを述べているのだが、大変重要なことを述べている。

2. 一般質問の記事については、「本文 40%、見出しと写真 40%、空白 20%」を目標、空白で見やすく A4 版で 6 段組を基本、段間 1.5 行あけている。

発行された議会だよりの紙面を見ると、レイアウトにゆとりがあり読みやすい。また、見出し文（リード文）にインパクトが感じられ、分かりやすく表現がされている。Q&A の文書が明確に表現されている。しかし、内容によっては論争過程が分かりにくい。議事録を閲覧できる旨の告知内容等があると、より充実していくと思いました。

○ 愛知県東郷町役場「子育て支援ナンバーワンのまちづくりについて」

「私たちは、子育て支援 No. 1 を目指します。」を掲げ、子育て応援プランの充実が図られている。

当町については、プランを参考にさらなる充実を図るべきである。

反面、財源の確保が課題と考える。自主財源の確保を考えた施策の充実が、さらに必要であると実感しました。

佐々木 昇 議員

○ 愛知県大口町

視察項目：議会広報について

- ・レイアウトでは、記事 40%、見出し 20%、写真 20%、余白 20%を基本目標にしており、余白が多いレイアウトとなっている。
 - ・一般質問の編集では、質問した議員から出された原稿を委員会で編集をしている。編集のすべては委員会に任されており、大胆な編集例もあった。
 - ・2年に1度、町主催のイベント来場者にアンケートを実施している。
- *議会だより作成はすべて委員会で責任をもって行っており、一般質問の編集例等を見ると、改めて委員会の責任の重さを感じました。

○ 愛知県東郷町

視察項目：子育て支援ナンバーワンのまちづくりについて

- ・保育園でコーディネーショントレーニングを実施している。
 - ・保健・医療・福祉・教育などの関係機関が密接な連携体制の構築を図る、発達障がい早期発見・早期支援体制を実施している。
 - ・子ども医療費助成は18歳まで所得制限なしで無料としている。
 - ・子ども条例を制定している。
- *子育て支援として、様々な施策に取り組んでいました。
- 開成町とは地域性の違いもありますが、学ぶところも多く有意義な視察となりました。

小林 秀樹 議員

○ 【議会広報について】 / 大口町議会

- ・駅なし平坦地で企業城下町。コミュニティバスが町内主要箇所と隣接3駅を結び縦横に走りまわる。人口倍増、町制施行50周年を過ぎた比較的暮らしやすいまちは庁舎棟内からもイメージできる。
- ・だが、議会については無関心、議会広報については“見ない、読まれない”を前提に、H19年議会広報常任委員会を立上げ試行錯誤を重ねてきた結果、徐々に受け入れられてきた。規制緩和と町民目線を外さない努力があった。
- ・委員は専門性を活して編集に携わり、議会広報の固さを一変する紙面編集。町民対象事業で議会ブースを設け、アンケートをとり分析する。動画サイトを活用しホットな情報を提供するなどの改革が功を奏したと感じる。

○ 【子育て支援ナンバーワンのまちづくりについて】 / 東郷町

・子育てするなら東郷町と云われるゆえんは、行政側各担当者の熱気からも想像される。短期間に確立されたものではなく、成功事例を重ね上げる努力が多いと感じられ、公官民の力（人と金の支援、TIS など）の結実と言える。

・コミュニティバスの利用者が少ない。マイカーが殆どで健康づくりのために来る子育て親子や元気な高齢者。他市町からも続々集まり庁舎併設の「ファミリーサポートセンター」「いこまい館」「地域包括センター」に活気があふれている。

・第五次総合計画は開成町より2年先行しているだけ、現時点での財政や支援策内容は東郷町の先行を許すが、子育てや高齢者福祉で当町も追いかける。正しい路線を見極めつつ協働と交流、福祉まちづくりに努力したい。

井上 宜久 議員

こども・子育ての取り巻く環境が変化する中『子育て支援 No. 1』を目指している東郷町の支援策を期待をもって視察した。

○ 子育て支援の主な内容

支援プランは14項目、6課が連携し管理。

・ 子ども医療費助成

子どもの入院・通院医療費が「18歳」まで無料。

・ 妊娠・出産の応援

不妊治療費助成制度、不育症治療費助成制度。

・ 安心な居場所の提供

児童クラブ・こども教室とも、希望者は4年生まで受け入れ。

・ 病気になっても安心保育

病児・病後児保育。

・ 子育てをサポート

5歳児を対象に、専門家等による「すくすく発達相談」等で成長をサポート。

○ その他の支援

児童館を活用し、親子の交流・子育て相談や幼児期からの健康づくりで日々保育の中で、元気体操の実施。子どもから高齢者向け健康づくりの諸施策に力が注がれている。

○ 視察を通して

子育て支援策は、財政支援、環境整備面等すべてに心の通った諸施策が、さまざまな視点から事業が展開されている実感を持ちました。私達からみれば至れり尽くせりの感があり、子育て支援 No. 1 を目指しているにふさわしい取り組みです。開成町も子ども達の元気な声が全町に響き渡る開成町らしい施策を知恵を絞って取り組みたいものです。

小林 哲雄 議員

愛知県大口町（おおぐちちょう）へ伺い、議会だよりに関する研修に行ってきました。大口町は面積 13.58 km²で、人口は約 23,193 人の自然や広大な田園地帯が広がる町です。

この町の議会だよりの特色は、①官報や行政の広報ではなく、週刊誌が手本。②役所言葉はできるだけ住民目線の言葉に変える。③『「誰も読まない」から始めよう！』が原点。ということでした。

一般質問の紙面のレイアウトは、「本文 40%、見出しと写真 40%、空白 20%」を目標としていました。空白の 20%には驚きました。

私たちの議会も「分かりやすく」「ありのままに」ということは常に意識をしていますが、大胆な発想での編集には勇気がいるところです。

例えば、週刊誌が手本ということで閉じ穴はありません。週刊誌のように読んだら保管せず捨てるという発想だそうです。この点には疑問が残ります。過去の経緯や発言を振り返る際にも必要となってくると思います。しかし、「役所言葉は日常語へ変換する」ことや、「質問項目の『「～について」の見出しは止め一歩踏み込んだ具体的な見出しにする』こと、「専門用語には説明書きをつける」はすぐにでもできそうですので、実現できるよう考えていきたいと思います。